

巻頭「国語の学びを見わたそう」

学びの流れが ひと目で分かる

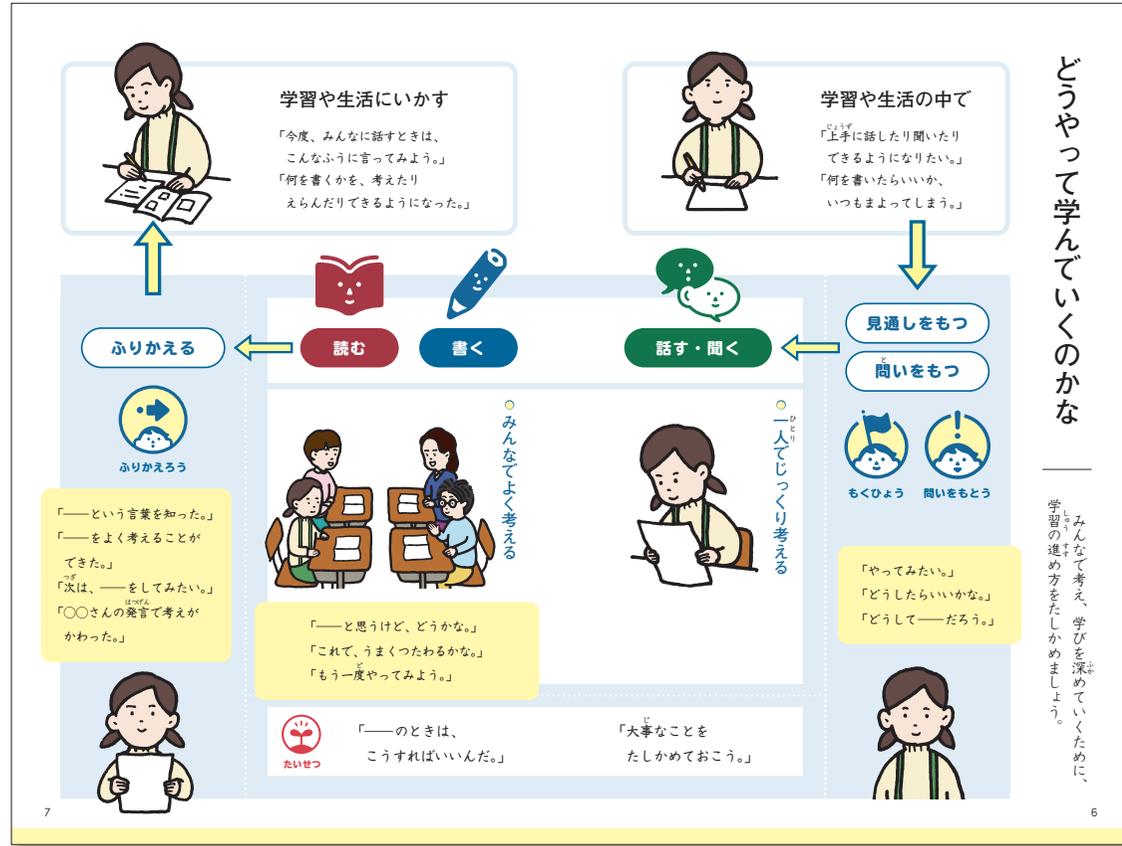
国語の学びを
見わたそう

何かをつたえようとするとき、あなたと友だち
とは、使う言葉がちがうことがあるでしょう。
同じことを言おうとしても、いろいろな言葉で
表すことができるのです。あなたらしい言葉で
つたえられたらいいですね。

さあ、言葉について
学んでいこう。



▲3年上



どうやって学んでいくのかな

みんなて考え、学びを深めていくために、
学習の進め方をたしかめよう。



ポイント1

**国語を学ぶ意義を
考える**

国語を学ぶ意義を、みんな
で話し合い、国語学習への期
待感と意欲を高めます。

ポイント2

**学び方が
ひと目で分かる**

① 学習や生活の中で感じた子
どもの「問い」が、学びの
出発点です。

ポイント3

② 個別最適な一人一人の学び
と対話を通じた協働的な学
びの両面から、学びを深め
ていきます。

③ 学びをメタ的に振り返るこ
とで、成長を実感し、次の
学びへとつなげます。

一年間の学びを見通す

上段は、言葉の力に着目し
て、一年間の学びを見通せる
ように、「たいせつ」の見出し
で整理しました。
下段には、これまでに学ん
だことを、学習過程に沿って
示しました。

ブックイン
ブックの
構造に



他のページよりも幅が短く、
紙質も違うため、いつでも開
きやすく、見返しやすくなっ
ています。

各単元の学習も、
同じサイクルで
構成されています。

三年生で学ぶこと

ことばのじゅんぷうんどう
よく聞いて、じこしようかい 14

話を聞いて、知りたいことをしつもんする
もとも知りたい、友だちのこと 44

話し合って、考えを広げる
こんな係がクラスにはいい 122

進行を考えながら話している
理由をあげて、つたえたいことを話す
おまにへりの場所、教えます

三年生は、話し合いの
しかたを学びんだね。



二年生で学んだこと

つたえたいこと、ききかた、や、思っかた
と、なごからくわしく思ひ出す。

聞き取りやすい声の大きさや、話す速さ
をきく。

相手はなにを話しているか、大事なこと、お
まにへりの場所、教えます。

話し合ったり、聞いたり、話し合ったりして、きか
つたことをつたえよう。

話し合ったり、聞いたり、話し合ったりして、きか
つたことをつたえよう。



「国語の学びを見わたそう」の使い方を、
動画で解説しています。

子どもの「問い」から 学びが始まる

▼3年下

「読むこと」の学習過程に沿って、
課題を整理しています。

たいせつ 登場人物についての考えをつたえ合う

次のことに着目し、場面や言葉を読むにつけながら、登場人物の気持ちのへんかやせいにかくについて考える。その人物の行動や会話、語り手や他の登場人物が、その人物について語る言葉

○考えるときに着目した言葉や文を明らかにしながら、登場人物と自分をくわべて感じたことをつたえる。

○他の人と感想を交流することで、新しい考えに出会うことができる。

いかそう 物語を読んだら、友だちと交流して、登場人物や物語についての考えや感じ方をいを楽しまししょう。

この本、読もう

斎藤隆介さんの本です。どんな人物が出てくるでしょうか。

ソメコとオニ
ソメコは五歳の女の子。オニにさらわれても泣いて、ずっと遊びにいきます。つかれたオニは、――。

花さき山
山で道に迷ったあやめは、一面にさく美しい花びら。山はがそのひみつを教えてくださいました。

八郎
八郎は、山のように大きな男。波を流された村の人々を助けたと、ある行動に出ます。

見通しをもとう

問いをもとう
あなたは、「豆太」をどのような人物だと思いましたか。友だちは、どのように考えているでしょうか。

もくひょう
人物を表す言葉に気をつけて読み、「豆太」について考えたことを友だちとつたえ合おう。

・年れいやせいにかくを表す言葉など、人物を表す言葉に気をつける。
・自分と友だちの考えのちがいを、友だちの考えのよさに気づく。

語り手
物語の地の文を語る人。
164ページ
165ページ

ふかめよう

○場面ごとに、「豆太」と「じさま」の行動や会話、そのときの様子をたしかめましょう。

○「豆太」はどんな人物ですか。行動や会話、語り手が語る言葉などをもとに、そうせうしましょう。

○物語のはじめと終わりで、「豆太」はかわったでしょうか。着目する点をつたえらび、場面や言葉を見通しをたしかめましょう。

○「豆太」について考えてきて感じたことや、自分とくらべて考えたことをまとめましょう。その考えが、作品のどこから生まれているのかも書きましよう。

○「豆太」について考えてきて感じたことや、自分とくらべて考えたことをまとめましょう。友だちの考えと自分の考えをくらべて、にているところやちがうところ、新しく気づいたことを見つけましょう。

○「豆太」は「豆太」はゆうきが あるなと思いました。「豆太」は見た「場面では、――。もし、ぼくが「豆太」だったら、――。

「言葉のたから箱」
165ページ

まとめよう

○「豆太」の行動

○「豆太」の、自分自身への見方

○「じさま」から見た「豆太」

○「豆太」の、モチモチの木への思い

○つたえ合いのれい

○えらんで読めよう
次の中から一つえらんで、考えましょう。

ひろげよう

○「豆太」の行動

○「豆太」の、自分自身への見方

○「じさま」から見た「豆太」

○「豆太」の、モチモチの木への思い

○つたえ合いのれい

単元の学習と関連させて、さまざま
まな角度から本を紹介しています。

ポイント6 ポイント5 ポイント4 ポイント3 ポイント2 ポイント1

いかそう 他教科や日常生活で活用する視点を示しています。

たいせつ ここで身につけた国語の力を分かりやすくまとめています。

身につけた力をいかす

ふりかえろう 知る……知識・技能
読む……思考・判断・表現
つなぐ……主体的に学習に取り組む態度

学びを振り返る
評価に対応した三つの観点で、自分の学習を振り返ります。

協働的な学び
対話を通して学びを深めるイメージを、話例とイラストで示しました。

個別最適な学び
一人一人の子どもの興味に沿って、学びが進められるよう、選択課題を設けたり、考えるための観点を複数示したりしています。

言葉に着目する
言葉による見方・考え方を働かせながら学習に取り組めるように、着目してほしい言葉や表現を取り上げました。

もくひょう 上段：学習の目標
下段：目標を達成するための着眼点。指導事項に沿って、簡潔に示しています。

問いをもとう 一人一人の問いを目標へつなぐ
一読後の「あなた」の考えを尋ねることで、子どもの「問い」を引き出します。

